

# 麦



埼玉親の会「麦」発行  
2023年2月22日 156号

E-mail: mugi.saitama89@gmail.com

ホームページ: <http://ld-mugi.sakura.ne.jp/>



## 令和4年度を終えて～代表よりメッセージ～



早くも2月が終わろうとしています。新しい一歩を踏み出す人、特に変わらないという人も「心新たに」と思ったりする季節がすぐそこに。コロナの感染力は変わらなくても、マスクの使用は個人の判断になるとか。すっかり顔の一部のようになってしまったマスク。皆さんはどうしますか？人の表情が分かりにくい、知り合った人の顔を覚えられない寂しさ、など弊害があります。やはり、できればマスクの要らない状況になってほしいと思います。みんなの笑顔が見られるのがうれしいですね。でも人は様々に困難を抱え、訳あってマスクをする人たちもたくさんいらっしゃるはず。マスクをする人も外す人も、皆がそれぞれの理由を思いやる気持ちを持ちたいです。マスクに限らず、「なぜこの人はこうするのだろう」と思った時、非難する気持ちがわいた時、同時に理由を思いやる気持ちを持つことを忘れたくないです。発達障害のある人たちも、より多くの人にそう見ていただけるようになると嬉しいなと思います。

今年度は行動制限が緩和され「麦」の活動は会場開催のみでした。オンラインならよかったと思われた方はいらっしゃるでしょうか。「麦」に集ったことを少しでも「良かった」と感じられるよう、お一人でも多くの方が参加したり話したりできるとよいと思います。今年度も役員の皆さんをはじめ多くの方のお力をいただきました。本当にありがとうございました。来年度も皆さんと「麦」を通して活動していけたらと思います。どうぞよろしく願いいたします。

(M・K)



### 10月全体例会講演会

#### 県政出前講座「発達障害がある人の障害者手帳制度について」

講師：栗原 隆氏（埼玉県福祉部障害者福祉推進課 障害福祉・自立支援医療担当）

10/24（月）10:30～12:00 浦和コミュニティセンター第13集会室

参加者：会員11名（教育3名 就労8名）一般3名 計14名

娘の手帳の取得に当たり、具体的にどのようなサービスがあるのか知りたく、参加させていただきました。様々な障害の特性とその基本的な対応、手帳の種類と該当サービスについてのお話をさせていただきました。療育手帳と精神障害者保健福祉手帳、又等級によりこんなにも受けられるものが違うのかと驚くと共に大変参考になりました。また質問コーナーでは、感覚過敏からのタクシー利用、イヤーマフの購入による出費などが大きい為、手帳の制度の改善を求める声も上がりました。皆さんの意見からも気付かされる事が多々あり、大変有意義な時間でした。またこの様な会を催していただきたいです。ありがとうございました。

(T・K)



2022/12/14 (水) 10:30~12:00 浦和コミュニティセンター第13集会室

参加者：会員18名（教育G5名（うち夫婦1組）、就労G13名）見学7名 計25名

12/14 (水) に、2022年最後の「全体交流おしゃべり会」が開催されました。今回は特にテーマを設けずに、同年代の4グループに分かれてお話をしました。役員の方々の進行で、まず自己紹介をし、次に最近の悩みや聞きたいこと等について話した後、それらについて意見を交わしたり、教育・就労・福祉等の支援に関する情報交換をしたりと、活発なやり取りがなされました。

個人的には、長いライフスパンでの具体的な将来の見通しについてのお話は、とても参考になりました。それから、ご意見や情報がためになっただけでなく、参加者皆さんとのよいエネルギー交換に伴って、改めて力が湧いてくるようなひとときだったと感じました。そして、定期的に関催されるこういう場を、更に沢山の方々に活用していただけたらとも思いました。ありがとうございました。(M・F)

## 発達障害のある人のひきこもりについて



講師：さいたま市こころの健康センター 主事 下鳥葵氏（精神保健福祉士）  
主査 代田由美氏（保健師）

2023/1/31 (火) 10:30~12:00 浦和コミュニティセンター第14集会室

参加者：会員9名（教育G1名 就労G8名）一般5名 計14名

最近、ひきこもり、不登校が増えているとニュースでよく聞かれるようになり、どうしたら外に出でいけるのかなと関心があり、参加しました。

ひきこもりから回復するには理解してくれる人の存在があること、ありのままの本人を認めてあげることが大切で、安心と安全を保障して良好な関係を保つことに努める。コミュニケーションの回復のヒントは①本人との関係作り（挨拶や他愛のない話題から話せる関係を目指しましょう）②非言語的なサイン、タイミング（本人に話すときは感情的にならずに、穏やかな口調でゆっくりと話すことを心がけましょう）③I（アイ）メッセージを使う（Iメッセージとは、「わたしは～と思う」「わたしは～と感じた」というように自分を主語にする伝えかた）④良い面をとらえる（できていないところよりも、できているところを見つけて本人にフィードバックしていきましょう）の四つでこの中にヒントが隠されているかもしれないそうです。



また、家族自身もネガティブになりがちなので、家族自身が回復するためには、本人との距離を見直したり、自分自身を労わったり、家族の会で正確な情報を得るなどして、ひきこもらず孤立しないで、ほっとする時間を持つことが大切。家族のそうしたことが本人にも良い影響があり、ひきこもりの回復につながるようです。私もこころにゆとりを持ち、自分自身を労っていけるようにしていこうと思いました。(A・Y)

## 「発達障害のある人の教育から就業への移行～コロナ禍における変化～」

オンデマンド配信：基調講演・調査報告・ミニ講演 11月9日（水）～11月23日（祝・水）

ライブ配信：パネルディスカッション 11月13日（日）14:50～16:10

ライブ配信会場：浦和コミュニティセンターIT研修室 参加地域：32都道府県

参加者：全国LD親の会会員129名、一般参加25名、講師及び配信スタッフ6名、計160名

主催：特定非営利活動法人全国LD親の会 共催：埼玉親の会「麦」、茨城LD等発達障害親の会 星の子

後援：文部科学省、厚生労働省、埼玉県、さいたま市、埼玉県教育委員会、さいたま市教育委員会、

一般社団法人日本発達障害ネットワーク、一般社団法人日本LD学会

### 基調講演「発達障がいのある人の教育から就業への移行～今からできることを考える～」

田村恭子氏（埼玉障害者職業センター）

学校と職場では違うので、職場での試練に対応するために、今からできることを行い、自己肯定感をアップさせる。コロナによる職場環境の変化は、発達障害者の中でも、合う人、合わない人それぞれである。

### 調査報告「コロナで生じた教育から就業への状況変化」

井上育世氏（全国LD親の会理事長）

全国LD親の会が7～10月に実施した会員アンケート結果速報版。就職活動のオンライン活用は、政令指定都市以外の方が多し。職場におけるリモート使用は、思っていたより低い。

### ミニ講演 A「変化を乗り越える就労準備を考える」

朝日雅也氏（埼玉県立大学副学長）

働きづらさは、個々の力ではなく、コロナという環境だと多くの方が実感している。従来の枠組みに留まらない新たな視点を確保していくためには、リフレーミングの観点が重要な要素である。

### ミニ講演 B「変化を越えた事業主支援」

河崎誠司氏（埼玉県障害者雇用総合サポートセンター）

障害者を雇用する企業の支援機関。企業の意識を変化させ、障害者雇用のニーズの拡大が必要。コロナ禍では、企業見学はビデオ、研修はオンラインなど適時対応した。

### ミニ講演 C「保護者の私が就労支援事業に取り組んでみえたこと」

吉田美恵氏（就労支援事業所カフェベルガ）

発達障害者の親で、就労支援事業所を経営。親は、我が子の失敗を責めず、子どもの将来は子ども自身に任せるべき。社会や福祉に頼ることも必要で、利用できる機関を調べておこう。



### パネルディスカッション「コロナで生じた就労状況の変化」

パネリスト：朝日雅也氏・河崎誠司氏・吉田美恵氏（ミニ講演者3名） 進行：井上育世氏

障害者の働く現場は、ICT等が遅れていたが、コロナによる社会変化を受けて、多様な要素がリフレーミング化している。従来の視点を換え、本人に寄り添い、本人が働きたくなければ働きたくなるまで待つ姿勢は大切。企業とうまくマッチングできれば、働く意欲は向上する。就労支援ケアマネジメントが形骸化しないよう、ネットワークを組んで本格的に構築することが必要である。

「麦」は、公開フォーラムを共催という立場で協力いたしました。大変実りあるフォーラムでした。ページの都合で簡略報告になってしまい、申し訳ございません。ご登壇いただきました講師・パネリストの皆様、ご視聴いただきました皆様、お力添えいただきました全ての皆様に、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました

(H・Y)

### 第3回行政勉強会「放課後等デイサービスの質的向上や不登校について」



11/27 (日) 10:00~12:00、12/10 (土) 14:00~15:30 Zoom 利用

\*12/10 (土) は11/27 (日) のZoom入室トラブル対象者向け録画再生

講師：日詰正文氏 (元厚生労働省、JDDnet 事務局長、言語聴覚士)

現在、小学生から高校生の発達が気になる子どもたちにとって、放課後等デイサービスはとても大きな存在になっています。でも、利用が開始されたのは2012年。まだ10年ほどしか経っていません。今回の勉強会では、発足の経緯やこれまでの歩み、現在の状況から今後の課題までを説明いただきました。現在は、多くの事業者が「居場所の提供」「療育」「勉強」など事業者ごとの運営方針でサービスを提供しており、それぞれに様々な課題があったり、放課後等デイサービスと保護者、学校、医療、福祉などとの連携の問題などがあり、より良い支援の場になるよう検討会が設けられているということです。

また、不登校とはどのような状態のことか。不登校の一部の人がひきこもりになる場合があるけれど、不登校＝ひきこもりではないとのこと。ひきこもりとニートの違い。ひきこもりと発達障害の関係などお話しいただきました。原因が様々なので、解消のきっかけも個々に違うとのこと。発達障害のあるひきこもりの人への改善のプログラムもあるということです。この度もとても有益なお話を伺うことができました。企画してくださった全国LD親の会の皆様、ありがとうございました。(M・K)

放課後等デイサービスとその周辺に関するこれまでの経緯について、説明がありました。その中で、放課後等デイサービスによって支援内容に違いがあり、適切な支援が行われていない事業所もあるとの問題意識があげられています。

- ① 支援内容が安全な預かりに偏っており、発達支援が適切に行われていないと見られるもの
- ② 学校の宿題を見る等、支援内容が学習塾的な支援に偏っていると見られるもの
- ③ (学習塾以外の) 一般的な習い事とほとんど変わらない支援を行っていると思われるもの
- ④ その他(サービスの提供時間のほとんどを送迎が占めており、実質的に送迎を目的としたような利用形態である。レジャー施設で過ごしているだけと思われるもの等)

不登校の子たちが進学や就職するときに福祉サービスを受けられず、路頭に迷いひきこもりにつながる。不登校やひきこもりをなくすには、教育段階から質の良い発達支援を受けることが大切。放課後等デイサービスの質的向上と不登校はこの勉強会で教育・福祉・家庭のトライアングルが最も重要で放課後等デイサービスの間の交流や進学する学校との連携があらためて必要だと認識いたしました。

不登校になった子供たち等が放課後等デイサービスなどを利用した時に学校の出席日数に反映できるような教育体制になり、より良い発達支援になっていけたら良いなあと感じました。企画をしてくださった全国LD親の会役員の皆様、ありがとうございました。(A・Y)

### 第4回行政勉強会「自閉症・情緒障害特別支援学級と通級による指導」

1/22 (日) 10:00~12:00 Zoom 利用

講師：笹森 洋樹氏 (独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 発達障害教育推進センター センター長)

子どもにどんな教育の場を選んだらよいか、障害の有無にかかわらず親は悩むものですが、在籍する学校や学級、どのような教育の支援を受けるかなど、親もそして子どもとても迷います。通級指導が始まって約30年だそうです。現在の特別支援学級と通級指導教室の方針、現状、課題についてとても丁寧に教えていただきました。子どもの数が減少しているのに特別支援教育を受けている子どもは増加していますが、支援や配慮を求めることが容易になったためだとしたら嬉しいです。確実に支援は広がっているけれど、親の立場からすると、もっと自分の子どもに合った教育の場が欲しい、適切な支援が欲しいと感じていることと思います。現在受けられる支援、要望したい事柄を正しく判断するために、知識をしっかりと持たなければいけないと思いました。そのための充実した勉強会でした。企画してくださった皆様、どうもありがとうございました。(M・K)

## 第1回幼児・小学生保護者会員交流会

1/27(金) 9:30~11:30 オンライン参加者：各地親の会正会員14名、理事・評議員5名、計19名

各地親の会において、小学生以下の保護者数が減少していると報告されています。そこで、小学生以下の保護者達が同年代の仲間と交流できるように、全国LD親の会では、標題のオンライン交流会を開催いたしました。当日は、全国各地から年少～小学5年生までの保護者14名が参加しました。自己紹介の後、年齢の近い人達が



3つに分かれ、そこに理事や評議員が進行役に加わって、楽しくおしゃべりいたしました。私は、高学年のグループに進行役として参加しましたが、みなさんとても熱心で、学校への対策も非常に勉強しており、感心させられました。ある参加者が悩みを話すと、それを聞いた他の参加者が支援策をすぐ提示し、チャット機能で関連URLまで丁寧に伝えていました。「麦」の対面おしゃべり会とは、一味違う様子に驚きました。進行役として、たいしてお役に立てませんでした。参加者皆様が有益な時間を過ごせられたら嬉しく存じます。(H・Y)

### 発送活動

#### 10月発送 10/24(月)



浦和コミュニティセンター第13集会室 13:00~印刷製本封入  
午前の講演会の後、役員5名と会員1名の6名で、機関紙10月号の発送作業を行いました。10月は、発送数も印刷製本も、さほど多くなかったため作業は短時間で終了できました。発送のお手伝い、ありがとうございました。発送は、2月と4月が送付先も印刷製本も大量です。2月と4月は、特に発送作業のご協力をお願いいたします。(H・Y)



### 役員活動報告(埼玉県)

#### 令和4年度第1回発達障害者支援地域協議会



10/27(木) 10:00から、オンライン(Zoom)にて標記の協議会が開催されました。内容は以下の通りです。

##### (1) 発達障害の診療待機について【診療・療育体制検討部会 最終報告】

診療・療育体制検討部会での最終報告の説明がありました。初診診療待機が生じる背景と要因として以下の5項目が挙げられました。①幼稚園・保育所などで「早期発見」されるケースが増え、医療に繋がるケースが増えている。②需要に対して、医療側の供給が少ない。③再診者が滞留している。④通所支援を利用するための受給者証を取得するために、診断を求めるケースが増加している。⑤保護者が子どもの発達に関して相談できるところが少なく、不安になって医療に向かう。場合によっては、複数の医療機関にかかることもある。

これらの背景と要因を踏まえて、初診診療待機解消に向けての課題と今後の対応策として次の5項目に整理したと報告がありました。①発達障害に関して専門性の高い医師の育成。②発達障害の診療の効率化。(福祉との連携・検査のアウトソーシング) ③障害児通所支援等の申請の手続きによる需要増への対応。④発達障害に関する相談先の不足⑤診療待機中の保護者に対する心のケア。

##### (2) 成人期の発達障害者への支援について

埼玉県発達障害者支援センター「まほろば」の相談事業の概要の報告と二人の方の相談事例の支援についての報告がありました。

次回(第2回)は成人期の発達障害者への支援について、議論していくそうです。ご質問や資料閲覧等の問い合わせは、役員までお願いいたします。(A・Y)

## 第 44 回全国特別支援教育振興協議会

12/2 (金) 10:00~15:45 南大塚ホールにて

「麦」が所属する全国 LD 親の会が全国特別支援教育推進連盟の会員であることから、標題協議会に他会の方とともに当会の役員 2 名が出席しました。発達障害だけでなく全障害や難病など、教育に配慮が必要な子どもたちへの教育の充実に向けた発表の場です。まず、文部科学省から来年度予算案の方針と厚生労働省から障害児支援施策の動向について説明がありました。次に主題「インクルーシブ教育システムの充実に向けて」として、1 部は ICT を活用した特別支援教育の質の向上についてやその活用例の講演がありました。2 部では交流及び共同学習の充実に向けて、と題してシンポジウムがありました。東北の震災の時、避難所で障害のある子の対応に迷っていた際、その子を交流学习を通して知っていた子のアドバイスで助けられた、というお話が印象に残りました。地域で共に暮らし、理解することの大切さがよくわかるエピソードだと思いました。

全体を通して、ICT も含めた教育支援、学校（教員）の理解の促進と質の向上、自校での通級など、これまで麦も要望してきたことに間違いはなく、少しずつ実現しており、これからも進展していくことが期待できると思いました。(M・K)



### 役員活動報告（さいたま市）

#### 令和 4 年度第 2 回さいたま市発達障害者支援連絡協議会

11/29 (火) 標題会議が Zoom を利用して開催されました。経験の浅い支援者のための模擬事例集（仮題）について第 1 回会議（7/14）以降作業部会において、様式の確認や各支援機関等から提出された事例の精査が行われてきました。今回の会議では、作業部会での検討を経た原稿の再確認を行いました。さらなる修正や課題を整理して、第 3 回（3 月）での完成を目途に作業が進められます。(M・K)

#### 令和 4 年度 さいたま市第 2 回誰もが共に暮らすための市民会議

12/20 (火) に与野本町コミュニティセンターで開催された標記会議に参加させていただきました。

テーマは「『障害のある方にとっての困りごと事例集～コロナ禍で抱える困難と合理的配慮～』の今後の周知方法・周知先について」、および「企業に合理的配慮を求めるとしたら（事例別検討）について」でした。小グループに分かれて意見を出し合う形式で行われ、私の参加したグループでは、事例集に関しては学校や PTA 活動で周知できないかとの意見があがりました。また、合理的配慮に関しては、事前に作成した、希望する配慮についての書式を、行政機関の窓口などでのやり取りに活用している体験を交えたご意見がありました。ほかのグループでは教育の場や医療機関での配慮についての意見がでていました。(Y・S)

#### 令和 4 年度第 2 回さいたま市障害者政策委員会

1/18 (水)、掲題会議が Zoom によるオンラインで開催され、委員として参加いたしました。

議題は、(1) 次期障害者総合支援計画策定のためのアンケート結果速報版について、(2) 『障害のある方にとっての困りごと事例集～コロナ禍で抱える困難と合理的配慮～』について、および (3) 第 2 回誰もが共に暮らすための市民会議の報告でした。次期障害者総合支援計画策定のためのアンケートは、昨年 10 月にさいたま市在住の正会員の皆様にご協力いただいたものです。速報ということで、アンケートの集計結果の報告と質疑でしたが、今後詳細にまとめられ報告される予定です。事例集はさいたま市のホームページに掲載されています。下記に示しました。どうぞご覧ください。

<https://www.city.saitama.jp/002/003/004/001/004/004/p089673.html>

(Y・S)

## さいたま市こころの健康センター主催 先輩保護者の話

### 「思春期編 発達課題がある子どもたち～家族のための勉強会～」

1/18（水）午前、標記の勉強会がさいたま市子ども家庭総合センター「あいぱれっと」で開催され、「麦」から役員 2 名が先輩保護者の立場で参加いたしました。前半は、役員 2 名から子育ての経験や事前質問された内容を各 25 分お話しいたしました。後半は座談会形式で、小 4～高校生までの保護者 7 名それぞれから悩みを伺い、質問にお答えいたしました。時間も限られており、個々の対応時間が短くなってしまいましたが、私達先輩保護者の話が、若い保護者達にとって少しでも励みになっていただけたら幸いです。当日は、私達も勉強になりました。主催者ならびに当日参加された若い保護者の皆様、ありがとうございました。（H・Y）

### 令和 4 年度さいたま市ひきこもり対策連絡協議会

1/23（月）午後、さいたま市子ども家庭総合センター「あいぱれっと」会議室において標記の会議が開催され、「麦」事務局の Y が委員として出席いたしました。本協議会は、関係機関におけるひきこもりの情報交換や地域連携を図り、相談内容に応じた適切な支援を行うために設置されたものです。

当日は、「各委員所属機関活動報告」「ひきこもり相談センター活動報告」「ひきこもり支援の充実をめざした取り組み」について、話し合いました。私からは、発達障害のある成人ご本人からのひきこもり相談が増加していることを報告いたしました。ひきこもり対策の新しい取り組み資料も提供されましたので、関心のある方は役員までお知らせください。（H・Y）

### その他

### 日本発達障害ネットワーク（JDD ネット）第 18 回年次大会を視聴して

2022/12/4（日）13:00～17:00 まで、Zoom で年次大会を視聴しました。ここのところ大きな講演会を聞くのはご無沙汰でしたが、11 月の全国 LD の公開フォーラムを Zoom で視聴して、やはり、専門家の話を聞き、最新の情報や知見に触れることは大切と思い、視聴しました。

テーマは「発達障害を捉え直す ～発達障害と知的障害の概念整理は、福祉・教育・雇用等の現場をどのように変える？～」です。アスペ・エルデの会理事長の辻井正次氏による基調講演「知的障害の定義・判定の議題と発達障害」に続き、厚生労働省、文部科学省の担当官、国会議員参加のシンポジウム 1 と保護者や専門家によるシンポジウム 2 の構成でした。

私の知らなかった事柄がいっぱいありました。まずは文部科学省、厚生労働省、内閣府などが所管していたこどもを取り巻く行政事務を集約させた「こども家庭庁」というのが 2023 年 4 月に新しくできるそうです。子育て支援がこれまでの縦割り行政から少しでもよくなっていくのかな。期待したいところです。

療育手帳の判定基準が都道府県によって違うということは知っていましたが、それも知的障害の定義というのがないからそうなったというのは驚きでした。1973 年に療育手帳制度がスタートして、その後大きな改訂がなく今に至っているそうです。知的障害の定義についても、知的に遅れているというよりも、年齢相応の行動がとれるかどうか適応機能があるかどうかで判定基準にする動きがあるようです。

WHO の疾病分類 ICD-10 から ICD-11 と変更され、今、日本語訳にする作業がすすめられているそうですが、ICD-11 では「障害」という言葉がなくなったので、「知的障害」ではなく「知的発達症」になるなど名称もいろいろ変わるようです。

私が間違っって解釈した部分があったらごめんなさいですが、話の全体を通して大きく感じたのは「これから障害の概念は大きく変わるのでは」ということです。障害の概念がかわることによって、支援の方法もより具体的になり充実されることを期待したいと思います。（C・N）

## 「麦」活動報告（機関紙 2022 年 10 月 155 号報告以降）



### <会全体の活動> 会員参加行事（会場開催）

- ・全体例会（学習や会員同士の交流の場の提供）
- 10/24（月） 講演会「発達障害がある人の障害者手帳制度について（県政出前講座）」
- 12/14（水） おしゃべり会
- 1/31（火） 講演会「発達障害がある人のひきこもりについて」

### <役員活動>（Zoom の記載なければ会場開催）

- ・役員会（活動の報告、計画、相談、情報交換など） すべて Zoom（1/31 以外）  
10/17（月）、11/9（水）、12/9（金）、1/11（水）、1/31（火）
- 講演会・おしゃべり会の企画と準備、公開フォーラムの準備・広報等、連絡網の方法について、個人情報などの扱いについて、今年度決算について、総会の準備、他
- ・機関紙発行および各種発送に関する活動
- 10/24（月） 機関紙 155 号発行 WEB 掲載、印刷、発送
- ・ホームページの更新
- 9/30（金）、10/23（日）、10/29（土）、12/6（火）、12/15（木）、1/13（金）
- ・行政関連の行事
- 10/4（火） さいたま市障害者へのアンケート さいたま市在住の会員に送付
- 10/27（木） 令和 4 年度第 1 回埼玉県発達障害者支援地域協議会（Zoom）
- 11/29（火） 令和 4 年度第 2 回さいたま市発達障害者支援連絡協議会（Zoom）
- 12/20（火） 令和 4 年度第 2 回さいたま市誰もが共に暮らすための市民会議
- 1/18（水） さいたま市こころの健康センター「発達の課題がある子どもたち～家族のための勉強会～」先輩保護者の話
- 1/18（水） 令和 4 年度第 2 回さいたま市障害者政策委員会（Zoom）
- 1/23（月） 令和 4 年度さいたま市ひきこもり対策連絡協議会
- ・その他
- 10/17（月） （株）ケノンソフト 来訪（Zoom）
- 10/20（木）～31（月）埼玉県立大学卒論インタビューに協力 麦内部の調整 10/28（金）実施
- 10/24（月） atGP ショブトレ IT・Web 大宮 来訪
- 12/14（火） 放課後等デイサービス バタフライエフェクト 来訪

### <全国 LD 親の会の行事>（すべて Zoom）

- 9/29（木）～10/31（月） 公開フォーラムの共催団体として：  
広報活動（印刷、発送、配布、メール）、利用会場で接続テスト、他
- 11/6（日）、11/10（木） 公開フォーラム 11/13 の予行練習  
公開フォーラム「発達障害がある人の教育から就業への移行～コロナ禍における変化～」
- 11/9（水）～11/23（水） オンデマンド配信
- 11/13（日） パネルディスカッション会場より配信
- 11/27（日） 第 3 回行政勉強会「放課後等デイサービスの質的向上や不登校について」  
\*12/10（土）に 11/27（日）の Zoom 入室トラブル対象者向け録画再生
- 12/2（金） 第 44 回全国特別支援教育振興協議会
- 1/22（日） 第 4 回行政勉強会「自閉症・情緒障害特別支援学級と通級による指導」
- 1/27（金） 第 1 回幼児・小学生保護者会員交流会



# 埼玉親の会「麦」主催 全体交流会 おしゃべり会 開催のお知らせ

感染対策を行った上で会場での対面おしゃべり会を開催いたします。みなさんの胸に抱えている悩みを話してみませんか？近況報告も大歓迎です。



麦会員限定（賛助・法人会員含む）の小グループによるおしゃべり会ですが、**入会検討中の会員以外の方もお試し参加として見学を受け付けています。**参加ご希望の方は 下記の申し込み先にご連絡ください。皆様の参加をお待ちしております。

**参加費無料** 定員 20名 先着順 定員になり次第締め切り

**日時** 4月24日（月）10:30～12:00（受付 10:15～）

**会場** 浦和コミュニティセンター 第8+9集会室

さいたま市浦和区東高砂町 11-1 コムナーレ 10F TEL 048-887-6565  
JR 浦和駅東口徒歩 1分 ロータリー前 有料駐車場あり

**申込み&問合せ先** 埼玉親の会「麦」

Mail mugisaitama89@gmail.com（申込先） TEL 080-4125-6020（再確認用）

**4月17日（月）までに**、参加者名、電話番号およびお子様の年齢を**メールでお申込みください。**3日以内に受付完了メールを送信します。受付完了メールが届かない時は、迷惑メールをチェックいただき、それでも届いていない時は、お手数ですが電話でご連絡ください。

見学参加者の個人情報、交流会の運営と緊急連絡などの目的以外に使用せず、必要がなくなり次第速やかに処分いたします。会員はメール連絡で申し込み先を確認してください。

## 新型コロナウイルス感染防止対策のお願いと諸注意

- お子様への感染防止の為、お子様の同伴はお控え願います。
- 当日は検温し、マスク（要持参）を着用してください。体調不良の場合はご参加を見合わせてください。
- 感染対策に際し、理由なくスタッフの指示にご協力いただけない場合は、お断りすることがございます。
- **会場開催の予定ですが、緊急事態宣言等の感染状況によりオンライン（Zoom）に変更する場合がございます。**その際にご連絡させていただきます。あらかじめご了承ください。
- 感染対策は行いますが、万一感染者発生の場合、当会は責任を負いかねます。ご理解の程お願いいたします。

埼玉親の会「麦」は、

LD（学習障害）、ADHD（注意欠陥多動性障害）、ASD（自閉スペクトラム症）の知的に遅れない発達障害の子どもを持つ保護者で構成されています。（1989年発足）保護者自身が子どものことを理解し、また、子どもたちが周囲に理解されて、自立した豊かな社会生活が送れるよう活動しています。

NPO法人全国LD親の会所属。



## 2022 年度総会（正会員限定）

日時 3月13日（月）10：30～（10：15 受付開始）

場所 浦和コミュニティセンター1T研修室

※出席者は郵送された総会資料を持参してください。

## 交流会「新年度の活動について」（会員限定）

総会后、13：00～浦和コミュニティセンター1T研修室

昼食は各自でご用意ください。

## ◆埼玉親の会「麦」主催 全体交流会 おしゃべり会

日時：4月24日（月）10：30～12：00（受付10：15～）

会場：浦和コミュニティセンター 第8+9集会室

※詳細は9ページのチラシをご覧ください。

※正会員は連絡網をご確認ください。



## ◆4月発送お手伝いのお願い

日時：4月24日（月）13：00～

会場：浦和コミュニティセンター 第8+9集会室

※全体交流会終了後、同会場で発送作業がございます。

ご都合のつく会員は、発送のお手伝いをよろしくお願いいたします。

## ◆埼玉親の会「麦」主催 5月講演会

NPO 法人市民後見センターさいたまから講師を招いて、高齢になった親が、障害のある我が子に負担を掛けさせないために、何をしておくべきか・・・親亡き後に、障害のある我が子が苦労しないために何を準備しておくべきか・・・などの内容でお話を伺う予定です。

日時：5月24日（水）10：30～12：00（受付10：15～）

会場：浦和コミュニティセンター 第13集会室

詳細は、決まり次第お知らせします。

## ～編集後記～ 2022 年度機関紙担当からのご挨拶



\*機関紙に原稿をお寄せいただいた皆さまへ

この度は、機関紙2月号に原稿を寄せていただき、ありがとうございました。これからも、麦の活動にご協力をお願いいたします。 <機関紙担当一同>

\*3年ほどコロナ感染に翻弄されていますが、感染はまだ収まる気配がありません。しかし、マスクの着用は3年半ばより個人判断になります。私は当分の間は外したくないなあと思っていますが、皆さまはマスクをつけますか？外しますか？この3年間でリモートワーク生活にも慣れて麦でもリモートで話し合いました。来年度は麦の皆さまとマスクを外して顔をみながら、対面でお会いしておしゃべりしたり、講演会を聴いたり、リモート（Zoom）で交流会したりできたらいいなあと思っています。 (A・Y)